



## **U B E 株式会社**

2022 年度第 1 四半期決算説明会

2022 年 8 月 4 日

## イベント概要

---

[企業名]	U B E 株式会社
[企業 ID]	4208
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2022 年度第 1 四半期決算説明会
[決算期]	2022 年度 第 1 四半期
[日程]	2022 年 8 月 4 日
[ページ数]	30
[時間]	18:00 – 18:45 (合計：45 分、登壇：28 分、質疑応答：17 分)
[開催場所]	電話会議
[登壇者]	1 名 取締役 常務執行役員 CFO 藤井 正幸 (以下、藤井)

## 登壇

---

**司会**：投資家の皆様、こんばんは。本日はお忙しい中、UBE 株式会社の電話会議にご参加いただきましてありがとうございます。これより、取締役常務執行役員 CFO、藤井正幸より、2022 年度第 1 四半期連結決算について、約 20 分間、ご説明申し上げたあと、質疑応答を行います。会議全体の時間は 45 分を予定しております。

電話会議を始めます前に、皆様にお断り申し上げます。これから行う説明におきまして、現時点の予想に基づく将来の見通しを述べる場合がございますが、それらは全てリスク並びに不確実性を伴っています。皆様には、実際の結果が見通しと異なる場合があることをあらかじめご了承ください。

それでは、決算説明を開始いたします。藤井常務、よろしくお願いいたします。

**藤井**：はい。皆さん、こんばんは。UBE の藤井でございます。本日はお忙しい中ご参加いただきましてありがとうございます。

それでは早速ですが、本日発表いたしました 2022 年度第 1 四半期連結決算、それから合わせまして本日修正発表いたしました今期の通期業績予想につきまして、資料に沿ってご説明をいたします。よろしくお願いいたします。

## 連結対象会社

項目	2021年度末 (A)	2022年度 第1四半期末 (B)	増減 (B) - (A)	摘 要
連結 子会社数	65社	37社	△28社	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 明和化成株式会社</li> <li>- 有限会社アルコマ</li> <li>- 宇部建設資材販売株式会社</li> <li>- 宇部興産建材株式会社</li> <li>- 宇部興産セメントサービス株式会社</li> <li>- 宇部マテリアルズ株式会社</li> <li>- 小澤商事株式会社</li> <li>- 関東宇部コンクリート工業株式会社</li> <li>- 関東生コン輸送株式会社</li> <li>- サンヨー宇部株式会社</li> <li>- 大協企業株式会社</li> <li>- 株式会社ニシハリマ宇部</li> <li>- 萩森物流株式会社</li> <li>- 株式会社富士宇部</li> <li>- 北海道宇部運送株式会社</li> <li>- 一関レミコン株式会社</li> <li>- 宇部興産海運株式会社</li> <li>- 宇部興産コンサルタント株式会社</li> <li>- 宇部サンド工業株式会社</li> <li>- 株式会社大分宇部</li> <li>- 株式会社関西宇部</li> <li>- 株式会社関東宇部ホールディングス</li> <li>- 三信通商株式会社</li> <li>- 新興運輸倉庫株式会社</li> <li>- 千葉宇部コンクリート工業株式会社</li> <li>- 萩森興産株式会社</li> <li>- 株式会社平泉</li> <li>- 株式会社北海道宇部</li> </ul>
持分法 適用会社数	26社	15社	△11社	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 宇部三菱セメント株式会社</li> <li>- 鹿野宇部コンクリート工業株式会社</li> <li>- 株式会社釧路宇部</li> <li>- 別海宇部コンクリート工業株式会社</li> <li>- やまよ商事株式会社</li> <li>- 千葉リバーメント株式会社</li> <li>- 北九州宇部コンクリート工業株式会社</li> <li>- 中四国宇部コンクリート工業株式会社</li> <li>- 北陸宇部コンクリート工業株式会社</li> <li>- UBE Singapore Pte., Ltd.</li> <li>- 山口エコテック株式会社</li> </ul>
計	91社	52社	△39社	

3

資料の右下にページ番号が振ってございます。まず3ページのスライド、連結対象会社です。

連結子会社数、3月末から大きく減りまして37社。28社ほど減少しております。具体的な社名、右の摘要欄に記載しておりますけれども、一番上の明和化成株式会社、こちらは4月1日付で当社に吸収合併をいたしました。それ以外の27社は建設資材関係でございます。

ご案内の通り、この4月1日付で、建設資材セメント関連事業につきましては、UBE三菱セメントに分離移管をいたしました。これらの連結子会社につきましてもあわせて移管をしたというものでございます。

それから持分法適用会社でございます。こちら11社が減少しまして15社となりました。この11社、これら全て建設資材関係ということで、同じくUBE三菱セメントに移管をしたところでございます。

## 環境要因

項目			2021年度 第1四半期 (A)	2022年度 第1四半期 (B)	差異 (B) - (A)	
為替レート		円/\$	109.5	129.6	20.1	
資 材 価 格	ナ フ サ	CIF	\$/ t	601	950	349
		国産	円/KL	47,700	86,100	38,400
	ベンゼン (ACP)		\$/ t	933	1,227	294
	蒙州炭 (CIF)		\$/ t	130.3	393.8	263.5
			円/t	14,261	51,018	36,757

4

続いて4ページのスライド、環境要因です。

為替レート、ご案内の通り20円強、円安で推移をしております。それからナフサ、ベンゼン、石炭、これら資材価格につきましても前年同期に比べますと、大きく値上がりをしたところでございまして、これらがコストアップ要因として、収益圧迫要因になっているというところでございます。

## 主要項目

(単位：億円)

項目	2021年度 第1四半期 (A)	2022年度 第1四半期 (B)	差異 (B) - (A)	増減率
売上高	1,463	1,162	△ 301	△ 20.6%
営業利益	89	44	△ 45	△ 51.1%
経常利益	89	23	△ 66	△ 74.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	48	57	10	20.7%

5

続いて、5 ページのスライド。主要項目についてでございます。

売上高は終わりましたこの第1四半期、1,162 億円。前年同期比で 301 億円の減収、率にしますと 20.6%の減収です。

営業利益 44 億円。同じく 45 億円の減益。率にして 51.1%の減益になります。

経常利益です。23 億円。同じく前年同期比 66 億円の減益。率にしますと 74.3%になります。

親会社株主に帰属する四半期純利益 57 億円ということで、こちらは前年同期比 10 億円の増益ということで、率にしますと 20.7%ということになります。

先ほども申しましたように、4月1日付でセメント関連事業を UBE 三菱セメントに分離移管をしておりますので、売上高その分、減収という形になっております。

ただ、営業利益につきましては、こうした建設資材関係が連結から外れたことに加えまして、この第1四半期、隔年実施の国内アンモニアの定修。これによる数量減ですとか、あるいは先ほどご覧いただきましたような原燃料価格の高騰、これによるスプレッドの縮小といったようなことがありまして減益になっております。

それから営業外損益のところをごさいます、持分法投資損益として、新しいセメントの新社、UBE 三菱セメントの利益を取り込むわけでごさいます。この新社の業績が石炭、原油等、こういったところの価格の上昇によりますコストアップで大幅に業績悪化しております。そうした影響で、当社経常利益の減益幅が拡大をしているといったところでは。

一方で、セメント関連企業の移管に際しまして、一過性の持分変動利益というのが特別利益として発生しております。この影響で、最終的な親会社株主に帰属する四半期純利益が増益になったというところが大きな概要でごさいます。

## セグメント別 売上高/営業利益

(単位: 億円)

	セグメント*	2021年度 第1四半期 (A)	2022年度 第1四半期 (B)	差 異 (B) - (A)	増減率
売上高	機能品	143	153	9	6.4%
	樹脂・化成品	573	714	142	24.8%
	機械	214	203	△ 11	△ 5.1%
	その他	126	156	30	24.2%
	調整額	407	△ 65	△ 472	-
	計	1,463	1,162	△ 301	△ 20.6%
営業利益	機能品	26	28	2	8.0%
	樹脂・化成品	53	19	△ 34	△ 64.2%
	機械	7	4	△ 4	△ 52.3%
	その他	5	7	2	33.5%
	調整額	△ 2	△ 14	△ 11	-
	計	89	44	△ 45	△ 51.1%

\* : 2022年度より、セメント関連事業の持分法適用関連会社化に伴い、「化学」「建設資材」「機械」「その他」から「機能品」「樹脂・化成品」「機械」「その他」の4区分とし、「医薬」は「その他」に含めています。それに伴い2021年度第1四半期実績についても比較のため新しいセグメント区分に組み替えており、「建設資材」は「調整額」に含めています。

6

続いて6ページ、売上高、営業利益のセグメント別の内訳でごさいます。

今期からセグメントの区分けを変更しております。下のアスタリスクに書いてあるようなところでごさいます、機能品、樹脂・化成品、機械、その他といった四つのセグメントに新たに組み分けております。これに伴いまして、21年度、前年同期の数値につきましても新しいセグメントに合わせて組み替えております。

なお、昨年度ごさいました建設資材の売上高、営業利益につきましても調整額のところでは差異を吸収しております。

売上高でございます。先ほど全体として 301 億円の減収と申しました。内訳としましては機能品が 9 億円の増収。樹脂・化成品が 142 億円の増収。機械が 11 億円の減収。その他部門で 30 億円の増収と。調整額のところ、ここは建設資材が減った分が入っています。472 億円の減収という要因でございます。

下の段、営業利益でございます。全体としては 45 億円の減益でございます。機能品は 2 億円の増益。樹脂・化成品で 34 億円の減益。それから、機械が 4 億円の減益。その他部門が 2 億円の増益というところで、調整額のところではマイナス 11 億円。このなかに建設資材が外れた分、マイナス要因が入っているというところでございます。

## 2022年度 第1四半期決算概要

UBE / UBE株式会社

### 差異分析 全社

(単位：億円)



7

続いて 7 ページのスライドです。

差異分析ということで、全社の内訳ということでございます。左側、差異の内訳、先ほどご覧いただいた通りでございます。

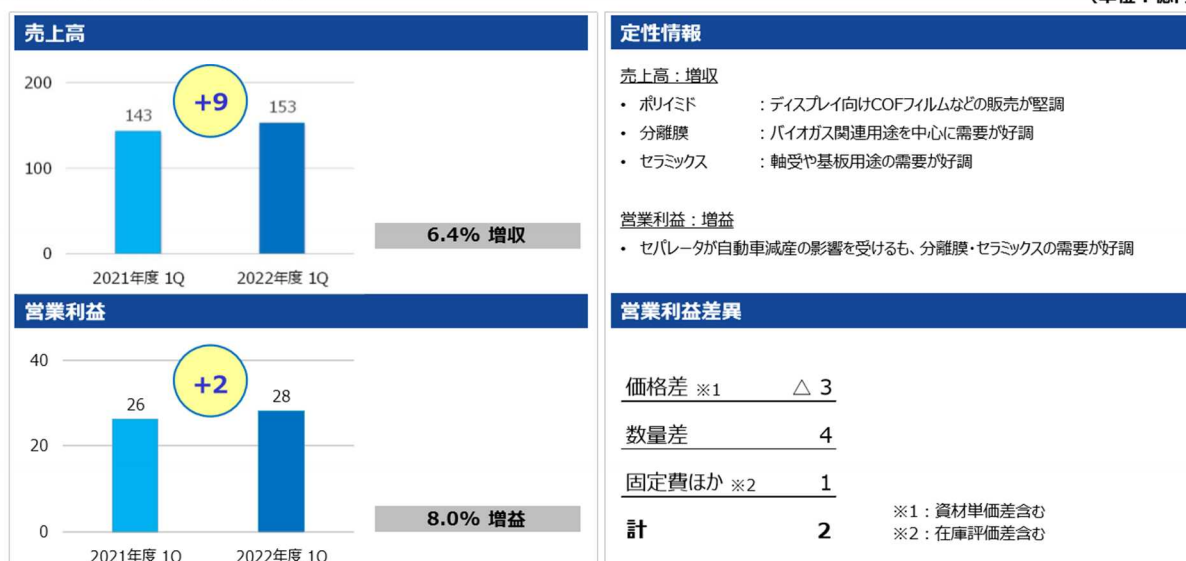
それから定性情報のところでございます。こちらも最初に概要を説明したような内容でございます。



右下の営業利益の差異というところです。45 億円減益の内訳としまして、価格差として 13 億円のマイナス。数量差として 20 億円のマイナス、固定費ほかで 12 億円のマイナスと、こういう要因内訳になっております。

## 差異分析 機能品

(単位：億円)



8

続いて 8 ページです。ここからセグメント別に、ご説明をいたします。

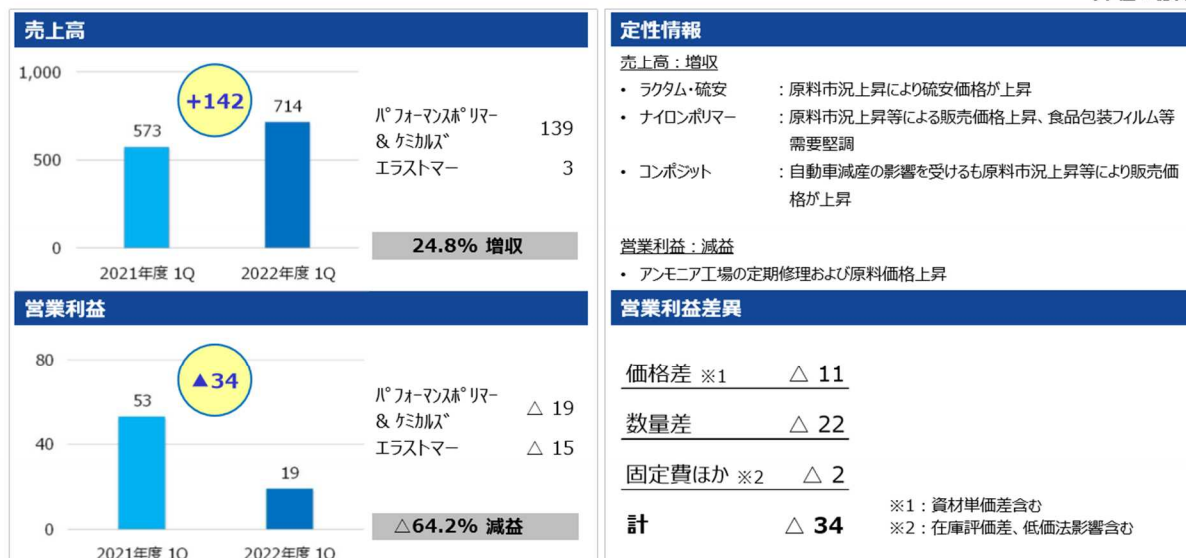
まず、機能品セグメントでございます。売上高 9 億円の増収、営業利益は 2 億円の増益と申しました。増収増益の主な要因でございます。右上、定性情報のところに書いてございますように、売上としましてはポリイミド、ディスプレイ向け COF フィルムなどの販売好調ということでございます。それから、分離膜、バイオガス関連中心に需要が堅調に推移しております。それからセラミックス、軸受け基盤用途の需要が好調に推移しているということで、売上として、増収になっております。

営業利益のほうです。セパレーターにつきましては自動車減産の影響を受けております。一方で分離膜、セラミックスと、こういったところの需要増でカバーをしているところでございます。

右下でございます。価格差として、このセグメント、3 億円のマイナス要因。この数量差で 4 億円のプラス要因。固定費ほかで 1 億円のプラス要因というのが内訳でございます。

## 差異分析 樹脂・化成品

(単位：億円)



9

続いて9ページのスライド、樹脂・化成品セグメントになります。

売上高は142億円の増収です。サブセグメントとしまして、パフォーマンスポリマー&ケミカルズの事業部、こちらが139億円の増収で、もっぱらこの影響というところがございます。エラストマー事業部は3億円の増収です。

それから営業利益のほうです。34億円減益ということですが、パフォーマンスポリマー&ケミカルズが19億円の減益。エラストマーが15億円の減益という形になっております。

定性的な要因でご覧いただきますと、売上高につきましてはラクタム、硫安と、これら原料市況上昇によりまして、価格上昇。とくに硫安の価格が上昇しているといったところ。

それからナイロンポリマーです。原料市況上昇による、ここも価格転嫁による価格の上昇。それからあと、食品包装フィルム等、このあたりは需要堅調に推移しているというところではあります。

コンポジットです。自動車減産の影響を受けておりますけれども、原料価格上昇、こういったところの価格転嫁が進んで、売上としては増収要因になっているというところではあります。

それから営業利益の減益でございます。アンモニア工場の定期修理による影響。ここはパフォーマンスポリマー&ケミカルズのところはこうしたアンモニアの定修要因で、数量減の影響が出ているといったところ。

それからあと原料価格の上昇による、スプレッドの圧縮。ここはエラストマーは、こういったところの影響が大きいわけですが、ブタジエンほか、価格アップでスプレッドが圧縮されております。

右下のところの営業利益の際の内訳ですが、価格差として11億円のマイナス要因。数量差で22億円のマイナス要因、固定費ほかということで、マイナスの2億円の要因ということです。価格差が主にエラストマー関係、それから数量差は主にパフォーマンスポリマー&ケミカルズが占めているといったような内訳でございます。

## 2022年度 第1四半期決算概要

UBE / UBE株式会社

### 差異分析 機械

(単位：億円)



10

続いて10ページ。機械セグメントです。

売上は11億円の減収。営業利益が4億円の減益ということでございます。要因としましては、売上高のところ、産機の電力会社向け運搬機、これらの大型案件が一巡したことによる減収。

それから製鋼のほうです。原料価格上昇等によって、これも価格転嫁で製品価格が上がっています。これらのプラス要因ということになりますけど。これらの差として、11億円の減収ということです。

それから営業利益です。こちらは産機の売上減に伴う利益の減少といったところが主な要因です。営業利益の差異の内訳です。こちらは価格差、数量差のところは、製鋼事業に関わるところということで、数量差でマイナスの2億円の影響と。固定費ほかのところは機械の限界利益等を含めませけれども、マイナス2億円の要因というところがございます。

## 差異分析 その他

(単位：億円)



11

続いて、その他のセグメントということですが、売上30億円の増収。営業利益は2億円の増益ということになります。

主な要因です。売上の増収ですが、これは自家発の関係でございまして、今期からセメント関連事業に関する電力、これを当社がUBE三菱セメントに供給をしておりますので、これが売上計上になるというところで、その分が増収要因になっているところです。

それから営業利益です。売電価格が上昇して、応分でプラスが発生しているような要因でございます。

営業利益の差異の内訳でございます。価格差と数量差、これはほぼほぼなしですね。あと固定費ほかといったところで、プラスが少し出てきたというところです。

## 営業利益～当期純利益

(単位：億円)

項目	2021年度 第1四半期 (A)	2022年度 第1四半期 (B)	差異 (B) - (A)
営業利益	89	44	△ 45
営業外損益	0	△ 21	△ 21
金融収支	3	8	5
持分法投資損益	2	△ 32	△ 33
うちUBE三菱セメント株に係る持分法投資損益	-	△ 34	△ 34
為替差損益	1	10	9
その他	△ 5	△ 7	△ 2
経常利益	89	23	△ 66
特別損益	△ 0	73	74
税金等調整前四半期純利益	89	96	8
法人税等・非支配株主利益	△ 41	△ 39	2
親会社株主に帰属する四半期純利益	48	57	10
1株当たり四半期純利益	47.31円	59.25円	11.94円

12

続いて12ページのスライド、営業外損益以降ということでございます。

この営業外損益のところ、終わった期、第1四半期実績として、マイナスの21億円ということで、前年同期が0でございましたので、差異としても21億円ほどここが悪化しているということになります。

内訳、ここにお示ししております。大きな要因としましては持分法投資損益。この実績値がマイナスの32億円ということで、前年同期に比べて33億円ほど悪化しているというところです。

この内訳としまして、UBE三菱セメントの持分法投資損益でございます。この第1四半期、持分法投資損益で、マイナス34億円というものを取り込んでおります。この影響が大きく、持分法投資損益全体として悪化をしているところです。

一方、為替差損益等はプラスが出ておりますので、それら差し引きして営業外損益トータルとしては21億円の悪化ということになりました。

経常利益はその結果として66億円の減益と申し上げました。

その下、特別損益です。こちらは終わった第1四半期でプラスの73億円、大きな利益が出ております。これにつきましてはセメント関連事業、これを移管したことに伴いまして、あらかじめ合意していた事業価値、これと実際に移管した資産とのギャップの部分、これが一時的に評価差として出てきたというプラス。

これと、あと過去の内部取引で連結消去されておりました、未実現の損益。これが実現したといった、この利益分を含めたところで、この建設資材関係に関わる持分変動損益としてはプラスの83億円という特別利益が出ております。

そのほかの要因とあわせまして、特別損益全体としては73億円という結果になっております。こうした影響がございまして、最終的に親会社株主に帰属する四半期純利益のところは、前年同期に比べて10億円の増益で57億円になったというところでございます。

## 貸借対照表

(単位：億円)

項目		2021年度末 (A)	2022年度 第1四半期末 (B)	差異 (B) - (A)
資産	流動資産	3,947	2,714	△ 1,233
	固定資産	4,431	4,658	227
	合計	8,380	7,373	△ 1,006
負債	有利子負債	2,418	1,889	△ 529
	その他負債	2,021	1,429	△ 593
		4,439	3,318	△ 1,121
純資産	自己資本*	3,691	3,801	110
	非支配株主持分他	249	254	5
	計	3,940	4,055	115
負債・純資産合計		8,380	7,373	△ 1,006

\*「自己資本」…純資産から新株予約権と非支配株主持分を除外したもの

13

続いて13ページ。バランスシートでございます。

こちらもセメント関連事業の分離移管の影響が出ておるところでございます。新会社に移管した分、資産、負債といったところが減少をしているというところでございます。

それから自己資本につきましては、こちらは四半期純利益のプラスと、それから配当の支払いということのマイナスが入ってきます。これに加えて、円安効果で為替換算調整勘定、ここでプラスが出ているということで、結果的には3月末から110億円、増加したというところでございます。

## キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

項目	2021年度 第1四半期	2022年度 第1四半期
A.営業活動によるCF	143	162 税金等調整前四半期純利益96 減価償却費62 運転資金の増減32 法人税等の支払△35 他
B.投資活動によるCF	△ 93	2 短期貸付金の増減83 有形・無形固定資産の取得△57 関係会社出資金の払込△25 他
フリー・キャッシュ・フロー (A+B)	51	164
C.財務活動によるCF	△ 198	△ 144 有利子負債の増減△93 配当金の支払△50 他
D.現金及び現金同等物の増減 (合、換算差額等)	△ 146	△ 381 会社分割に伴う減少△413 他
E.現金及び現金同等物の四半期末残高	650	406

14

続いて14ページのスライド、キャッシュ・フローになります。

営業活動によるキャッシュ・フロー、第1四半期は162億円のプラスということでございました。一方の投資活動によるキャッシュ・フローです。こちらが2億円のプラスとなっております。

右の摘要欄、ちょっと小さくて恐縮です。短期貸付金の増減、プラスの83億円というのがございます。建設資材グループ会社に貸し付けておりましたけど、再編に伴いましてこれを回収したということで、最終的な投資活動のキャッシュ・フローが2億円のプラスになりました。

これを除いたところでは、通常並みの投資活動によるキャッシュ・アウトが出ているところでございます。

結果、フリー・キャッシュ・フロー、164億円のプラスということで、財務活動によるキャッシュ・フローのところで配当金の支払いですとか、有利子負債の減少等に繋がっているところがございます。

それからあと、現金及び現金同等物の増減でございます。これも新会社に移管するに伴いまして、現金及び現金同等物も移管をしております。このマイナス要因も入ってきて、トータルとしては381億円の減少ということで、四半期末の残高406億円となりました。

以上が第1四半期の決算の概要でございます。

## 2022年度 連結業績予想

UBE / UBE株式会社

### 連結対象会社

項目	2021年度末 (A)	2022年度末 (B)	増減 (B) - (A)	摘要
連結 子会社数	65社	34社	△31社	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 明和化成株式会社</li> <li>- UBE Advanced Materials INC.</li> <li>- 有限会社アールコマ</li> <li>- 宇部建設資材販売株式会社</li> <li>- 宇部興産建材株式会社</li> <li>- 宇部興産セメントサービス株式会社</li> <li>- 宇部マテリアルズ株式会社</li> <li>- 小澤商事株式会社</li> <li>- 関東宇部コンクリート工業株式会社</li> <li>- 関東生コン輸送株式会社</li> <li>- サンヨー宇部株式会社</li> <li>- 大協企業株式会社</li> <li>- 株式会社ニシハリマ宇部</li> <li>- 萩森物流株式会社</li> <li>- 株式会社富士宇部</li> <li>- 北海道宇部運送株式会社</li> <li>- 宇部興産開発株式会社</li> <li>- Advanced Electrolyte Technologies LLC</li> <li>- 一関レミコン株式会社</li> <li>- 宇部興産海運株式会社</li> <li>- 宇部興産コンサルタント株式会社</li> <li>- 宇部サント工業株式会社</li> <li>- 株式会社大分宇部</li> <li>- 株式会社関西宇部</li> <li>- 株式会社関東宇部ホールディングス</li> <li>- 三信通商株式会社</li> <li>- 新興運輸倉庫株式会社</li> <li>- 千葉宇部コンクリート工業株式会社</li> <li>- 萩森興産株式会社</li> <li>- 株式会社平泉</li> <li>- 株式会社北海道宇部</li> </ul>
持分法 適用会社数	26社	15社	△11社	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 宇部三菱セメント株式会社</li> <li>- 鹿野宇部コンクリート工業株式会社</li> <li>- 株式会社訓路宇部</li> <li>- 別海宇部コンクリート工業株式会社</li> <li>- やまよ商事株式会社</li> <li>- 千葉リバーメント株式会社</li> <li>- 北九州宇部コンクリート工業株式会社</li> <li>- 中四国宇部コンクリート工業株式会社</li> <li>- 北陸宇部コンクリート工業株式会社</li> <li>- UBE Singapore Pte., Ltd.</li> <li>- 山口エコテック株式会社</li> </ul>
計	91社	49社	△42社	

16

続きまして、通期の業績予想、本日修正発表いたしました予想につきまして、ご説明いたします。

まず16ページ。連結対象会社でございます。

これは第1四半期で動いたものがほとんどでございます。上のほう、明和化成の下ですねUBE Advanced Materials というのと、あとその右、宇部興産開発とその下の、Advanced Electrolyte Technologies。この3社につきましては、もう既に清算手続き中でありまして、今期中に清算終了という予定でございます。

それ以外のところは建設資材関係ということで、先ほどご説明した通りでございます。



## 環境要因

項目			2021年度 (A)	2022年度 (B)	差異 (B) - (A)	
為替レート		円/\$	112.4	129.9 [130]	17.5	
資 材 価 格	ナ フ サ	CIF	\$/ t	702	935 [930]	233
		国産	円/KL	56,700	86,175 [86,200]	29,475
	ベンゼン (ACP)		\$/ t	990	1,222 [1,220]	232
	蒙州炭 (CIF)		\$/ t	170.3	398.5 [400.0]	228.2
			円/t	19,133	51,755 [52,000]	32,622

[ ]は2022年度第2~4四半期のみの数値

17

続いて、17 ページのスライド、環境要因です。

為替レート、ナフサ、ベンゼン、石炭等の価格。2 段表示しております。下の括弧がこの第 2 四半期以降の見立てでございます。第 1 四半期実績を組み込んだ通期ベースではこの上の段ということでございます。およそ、この第 1 四半期の実績程度の価格水準が続くという想定で、ご理解いただければと思います。

## 主要項目

(単位：億円)

項目	2021年度 (A)	2022年度 (B)	差異 (B) - (A)	増減率
売上高	6,553	5,570	△ 983	△15.0%
営業利益	440	320	△ 120	△27.3%
経常利益	415	170	△ 245	△59.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	245	150	△ 95	△38.8%

項目	2021年度末 (A)	2022年度末 (B)	差異 (B) - (A)
総資産	8,380	7,400	△ 980
有利子負債	2,418	1,800	△ 618
自己資本 *1	3,691	3,850	159
年間配当金 (円/株)	*2 95.00	*3 100.00	5.00

\*1: 「自己資本」…純資産から新株予約権と非支配株主持分を除外したもの

\*2: 95.00円 (中間配当金45円、期末配当金50円)

\*3: 100.00円 (中間配当金50円、期末配当金50円)

18

続いて18ページのスライド。主要項目でございます。

5月12日に開示しました業績予想を修正しておるところでございます。まず売上高、修正後ですけれども5,570億円。こちら当初計画から470億円ほど上方修正をしております。

それから営業利益です。新しい予想が320億円。当初の予想から25億円ほど下方修正をしております。

それから経常利益170億円ということで、当初の予想から140億円ほど、下方修正となっております。

最終的な親会社株主に帰属する当期純利益250億円ということで、こちら60億円の下方修正となっております。

原材料価格の高騰ですとか、円安の影響。こういったことを反映しまして、売上高につきましては上方修正ということになっておりますけれども、一部製品が足元の需給ですとか、あるいは市況の動向、こういったことを反映しまして、営業利益につきましては下方修正25億円というところでは。

それから営業外損益のところで、UBE 三菱セメント。こちらはやはり通期での業績悪化ということで、これを反映しまして、営業外損益を下方修正いたしました。それに伴いまして経常利益も先ほど申しましたように 140 億円の下方修正になりました。

それから持分変動利益、特別利益、第 1 四半期に出ました。こうしたことを反映しまして、特別利益は上方修正という形になっております。経常利益の下振れのほうが勝っておりますので、最終的な親会社株主に帰属する当期純利益も下方修正になったというところでございます。

バランスシートでございます。総資産は 7,400 億円の予想です。こちら、若干総資産が増加の見込みということでございます。その他、有利子負債、自己資本等につきましては大きくは変わっておりません。

2022年度 連結業績予想

UBE / UBE株式会社

## セグメント別 売上高/営業利益

(単位：億円)

	セグメント*	2021年度	2022年度	差異	増減率
		(A)	(B)	(B) - (A)	
売上高	機能品	608	690	82	13.5%
	樹脂・化成品	2,600	3,440	840	32.3%
	機械	970	1,040	70	7.2%
	その他	542	750	208	38.3%
	調整額	1,832	△ 350	△ 2,182	-
	計	6,553	5,570	△ 983	△ 15.0%
営業利益	機能品	116	130	14	11.8%
	樹脂・化成品	235	155	△ 80	△ 34.1%
	機械	51	50	△ 1	△ 2.5%
	その他	35	25	△ 10	△ 29.5%
	調整額	2	△ 40	△ 42	-
	計	440	320	△ 120	△ 27.3%

\*：2022年度より、セメント関連事業の持分法適用関連会社化に伴い、「化学」「建設資材」「機械」「その他」から「機能品」「樹脂・化成品」「機械」「その他」の4区分とし、「医薬」は「その他」に含めています。それに伴い2021年度実績についても比較のため新しいセグメント区分に組み替えており、「建設資材」は「調整額」に含めています。

19

続いて、19 ページのスライドです。セグメント別の売上、営業利益の内訳でございます。

こちら修正後の数字、こちらにお示ししている通りでございます。売上高、機能品は 690 億円ということで当初予想から変わっていません。

それから樹脂・化成品ですが、3,440億円。こちらは当初計画から420億円ほど上方修正になっています。機械は1,040億円。こちらは20億円の下方修正。その他、750億円ということで、150億円の上方修正。

調整額につきましては、マイナスが80億円ほど増えまして、350億円ということになりました。トータルとしましては470億円の上方修正の5,570億円ということでございます。

それから営業利益でございます。機能品130億円ということで、当初計画から変わらず。樹脂・化成品のところは155億円。ここが30億円ほど下方修正になりました。

それから機械、その他部門につきましてはそれぞれ、当初計画と同じということで変化なし。

それから調整額のところで5億円ほどプラスが発生しまして、マイナスの40億円ということ。最終的には営業利益トータルでは25億円の下方修正。320億円ということでございます。

## 2022年度 連結業績予想

UBE / UBE株式会社

### 差異分析 全社

(単位：億円)



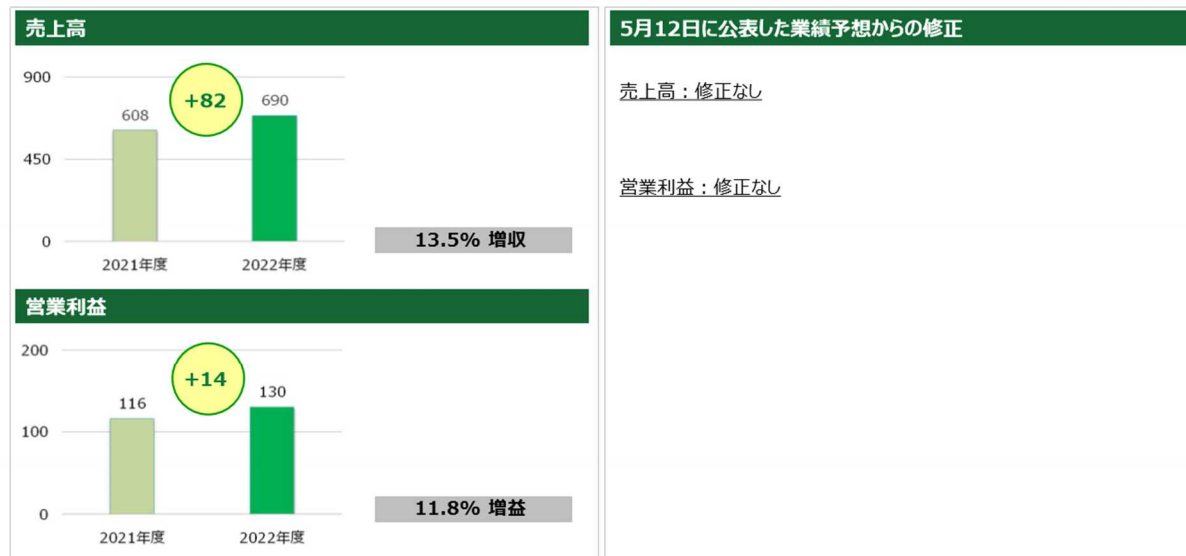
20

続いて、20ページのスライドです。差異分析、全社分です。

これは先ほど上のスライドでご説明した内訳でございます。業績予想からの修正内容につきましても、各セグメントのところでご説明をさせていただきます。

## 差異分析 機能品

(単位：億円)



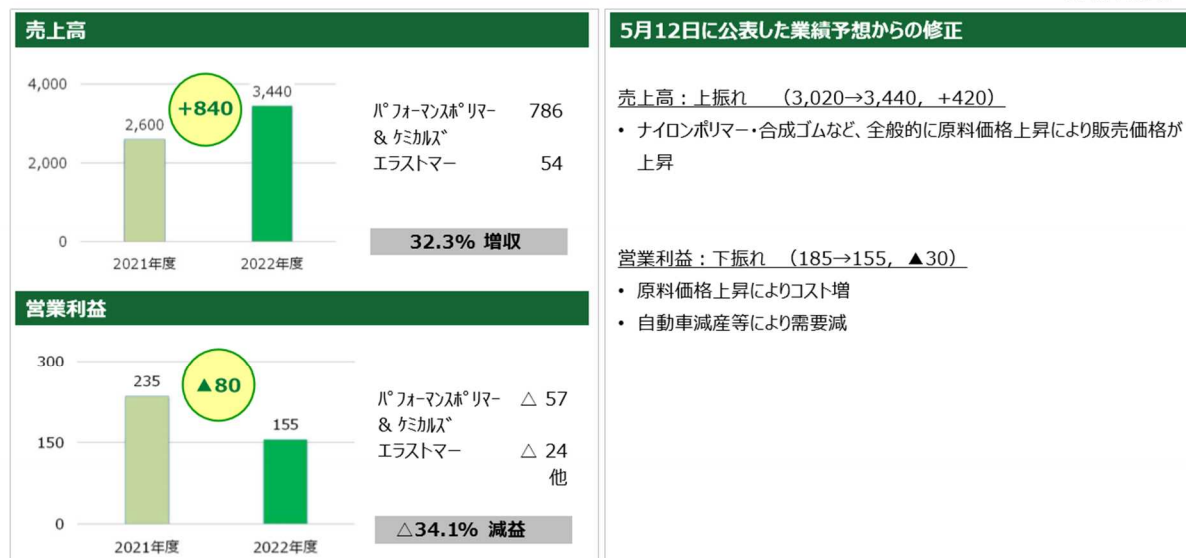
21

続いて 21 ページのスライド、機能品です。

こちらはとくに今回、業績修正、売上、営業利益とも修正なしということでございまして、前年対比では 82 億円の増収。それから営業利益は 14 億円の増益を見込んでおります。

## 差異分析 樹脂・化成品

(単位：億円)



22

22 ページ、樹脂・化成品でございます。

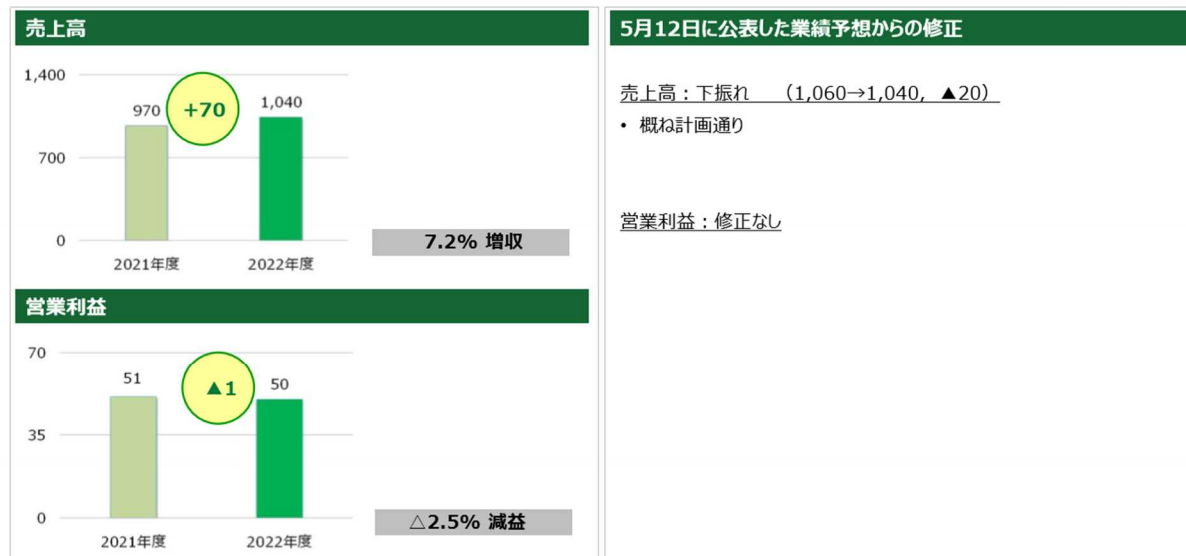
売上高 420 億円ほど上方修正をしております。ナイロンポリマー、合成ゴム等、全般的に原料価格が上昇しております。この価格転嫁ということでの売上増を織り込んでおります。

それから営業利益です。30 億円下振れ、原料価格の上昇によるコストアップの部分、それから自動車減産の影響ですとか、足元のラクタム・硫安等の需要低下、この部分を織り込んでということでございます。

結果的に、売上は 840 億円の対前年の増収。営業利益は 80 億円の減益を見込んでおるところでございます。

## 差異分析 機械

(単位：億円)



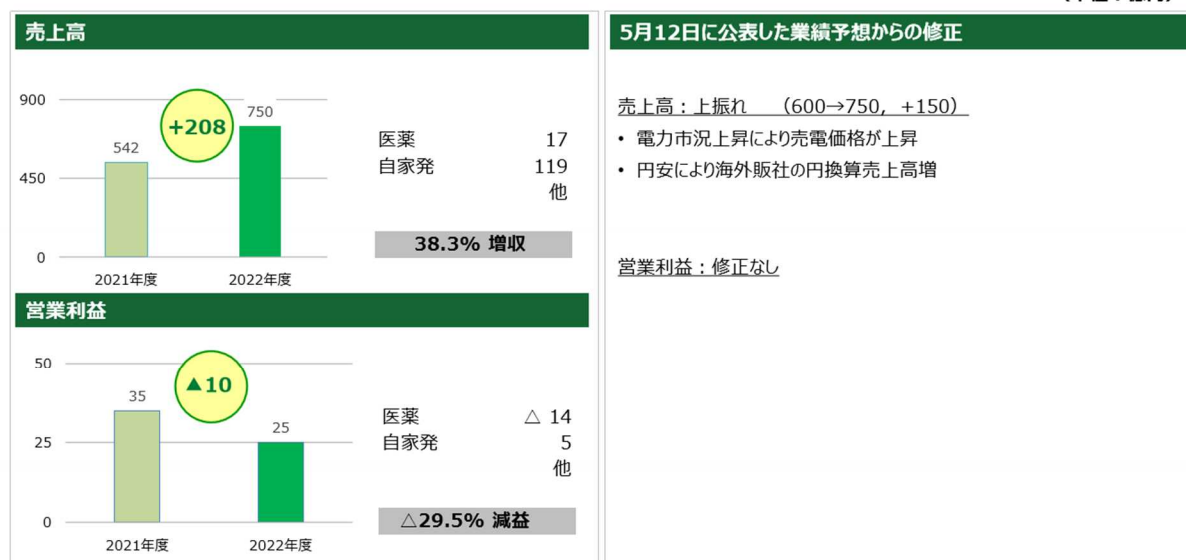
23

続いて、23 ページのスライドです。機械部門でございます。

売上高、若干下振れということですが、それほど大きな影響ではございませんし、営業利益はとくに前回から変えておりません。ということで、売上としては対前年 70 億円の増収。営業利益は 1 億円の減益を見込んでいるところでございます。

## 差異分析 その他

(単位：億円)



24

続いて24ページのスライド、その他部門ということでございます。

業績修正につきましては売上高、150億円ほど上方修正。電力市況の上昇ということで、売電価格の上昇分を織り込みました。それからあと円安に伴いまして、海外の販売会社の円換算が上昇するといったような影響を織り込んでおります。

営業利益はとくに、当初予想から変えておりませんので、結果的に売上としては208億円の増収。営業利益は10億円の減益という見通しでございます。



## 営業利益～当期純利益

(単位：億円)

項目	2021年度 (A)	2022年度 (B)	差異 (B) - (A)
営業利益	440	320	△ 120
営業外損益	△ 25	△ 150	△ 125
うちUBE三菱セメント㈱に係る持分法投資損益	—	△ 130	△ 130
経常利益	415	170	△ 245
特別損益	△ 48	70	118
税金等調整前当期純利益	368	240	△ 128
法人税等・非支配株主利益	△ 123	△ 90	33
親会社株主に帰属する当期純利益	245	150	△ 95
1株当たり当期純利益	249.31円	154.88円	△ 94.43円

25

最後に営業外損益以降でございます。

営業外損益、通期の見通し 150 億円のマイナスということになっております。

うち、UBE 三菱セメント分として、130 億円のマイナスを見込んでおるというところがございます。ここが営業外損益全体としては、前回予想に対し 115 億円ほどマイナスが増えてくるという見立てでございます。

それから特別損益ですけれども、こちらは持分変動利益のところを反映して、通期として 70 億円ほど上方修正をしたというところがございます。その結果、最終的に親会社株主に帰属する当期純利益、トータルとしては 60 億円下方修正の 150 億円ということになりました。

長くなりましたけれども、私からのご説明、以上でございます。

司会：ありがとうございました。

## 質疑応答

---

**司会：**それでは、これから質疑応答に入ります。多くの方からのご質問にお答えするために、お1人様1回につき2問までで、よろしくお願いいたします。

では最初に、A証券のA様、ご質問をお願いいたします。

**A：**はい。A証券のAでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

**藤井：**よろしくお願いいたします。

**A：**はい。今回の第1四半期結構良かったと私は思うのですけれども、全体下方修正ということで。樹脂・化成品の状況について教えてください。第1四半期は当初想定に対してどうだったのか、定性的でも構わないので教えていただきたいのと。

第1四半期とくにここを中心に、アンモニアの2年に1回の定修効果が業績を圧迫していると思います。持ち戻してやると通期の155億円というのは、第1四半期の状況が通年続くような前提にも見えるのですが、どうでしょうか。

今回予想で、上下差が大きい形になっているので、どういう形でこれ見ていらっしゃるのか、ちょっとご解説をお願いします。

**藤井：**はい。樹脂・化成品の状況。第1四半期の状況ということでございますけれども、計画に対してですと、第1四半期だけ取ってみますと、そんなに悪い状況でということではございません。ただ、この4、5月はどちらかというと、昨年の流れを受けた形になっておりました。

6月ぐらいになってから少し状況、とくに需要の関係で、低下傾向が出てきたといったようなところ。この辺りがとくにラクタムですとか、硫酸ですとか、こういったところで傾向が表れてきているというところでございます。

ラクタムにつきましては、中国、上海ロックダウンの影響等もありまして、中国市場、需要が軟化してきているというところ。

それからあとヨーロッパの方です。やはりあの天然ガスの価格が高騰しておりますので、こうしたことを背景にしまして、ラクタムの価格そのものは価格転嫁をして、大幅な値上げを、これ同業もそうなんですけれども、実施しております。

ですので、スプレッドは拡大しておるんですけども、全般的に物価高騰もありまして、需要が減退してきているといったようなところ。この第2四半期もこういった状況が続くそうだとすることを織り込んでいるということ。と。

あと、硫安につきましても、タイ、スペインとか、海外の方ですが、やはり市場価格が高騰しておりますので、買い控えということで需要が弱含んでいる。一方で、原料のアンモニア市場、高水準で推移しているということで、市況も軟化しながら採算が悪化しているといったようなところ。

足元そういった形で変化が見られてきて、ちょっと第2四半期はそれが続くそうだとすることを織り込んだところでございます。

**A:**なるほど。そこから下期は、少しは回復するような形になってるのでしょうか。

**藤井:**はい。下期につきましては、いろんな不安要素、懸念要素はありますが、基本的には、冬物の衣料の需要期に入るとか、肥料につきましても秋の肥料シーズンに入ってくるといったようなところ。

あと先ほど触れておりませんでしたけども、自動車も減産影響等がやっぱりこの上期は残ります。下期にはこのあたりも回復してくると見ておりますので、下期は基本的に当初見立てたような形で回復が進んでくるという前提で予想を組んでいるところでございます。

**A:**なるほど。わかりました。ありがとうございます。

もう1件お願いします。機能品なんですけれども、一部情報家電製品の調整のような兆しも見られますが、御社の機能品、とくにポリイミド関連、何か不安要因みたいなものがないのか、どうでしょうか。

ここは素直な業績予想にも見えるので、当初予想から変わってないということは、そのあたりはあんまり心配しなくていいのか、何かで入り繰りがあるのかを教えてください。

**藤井:**はい。機能品につきましては、全体としては当初計画通りということですが、製品ごとに見ると、多少プラスマイナスがございます。

一つはセパレーターです。こちらはやっぱり自動車減産等の影響を受けておりますので、下振れというところが出てきているところがございます。

それからあとポリイミドです。COFのフィルムとか、あるいは中国のLCDパネル、こういったところは生産調整がされておりますので、そういったところは継続するというところで進んでおりま

す。当社品への影響ということでは限定的でした。ただ、今後一定程度、影響が波及してくるということが見込まれるところです。

それからあとワニス向けの方です。こちらは上海のロックダウンですとか、中国のスマホ市場の低迷とか、こういったような影響を受けております。

円安の効果もありまして、ポリイミドのトータルとしましては全体としてほぼ、第1四半期は計画線に収まっている状況ですけれども。やはり、スマホ市場等の低迷、ここは第2四半期も当面続くとしておりますし、ワニスの回復等は少し時間を要するかなというような見立てをしておるところでございます。

ただ一方で、分離膜とかセラミックスとか、このあたり。分離膜でいえば環境対策を背景にしまして、バイオメタン用の脱炭酸膜。これの引き合い受注が、欧米から非常に旺盛になってきているといったようなところ。

そういったところですか、セラミックスにつきましても軸受けとか、基板用途、この辺りの需要が非常に旺盛になっていると、お客様からも増量要請が強まっているというような、こういったプラス要素がございますので、機能品全体としてそのあたり、カバーし合って、通期の計画はそのままいけるだろうというような見立てでございます。

**A:** なるほど。分離膜は結構、引き合いが強いのですか。

**藤井:** はい。バイオメタン用ですね。こちらはやはり環境対策ということ为背景にしまして。それからあとまた、天然ガスの価格が上がっておりますので、このバイオメタンの競争力が高まってきたといったようなところも背景にあらうかと思えます。

あとは窒素膜も航空機とか、船舶、資源系防爆と、こういったあたりの需要が回復してきているということで、非常に分離膜は今、好調に推移しているところでございます。

**A:** はい、わかりました。ありがとうございます。

**藤井:** ありがとうございます。

**司会:** ありがとうございます。次に、B証券、B様、ご質問をお願いします。

**B:** はい、B証券、Bです。どうぞよろしくお願い致します。

**藤井:** はい、よろしくお願いします。

**B:** 1点目は樹脂・化成品のパフォーマンスポリマー&ケミカルズについて教えてください。

9 ページ、YoY19 億円の減益となっていますけれども、この中身ですね。ナイロン、カプロラクタム、工業薬品、ファインのおよそ四つぐらいの塊に別れると思うんですけども、それぞれが減益なのか、どれかは増益なのか、中身について教えてください。

あと、カプロラクタムの Q1 の価格とですね、セカンドクォーター以降の前提もよろしければ一緒にコメントいただければと思います。

**藤井：**はい。まず第 1 四半期として対前年、パフォーマンスポリマー&ケミカルズでございますが、基本的にナイロン、ラクタム、工業薬品、ファインケミカル等、そのあたり全般的に少し前年よりも下回っているというところで。

このあたりやはり、定期修理の影響ということがございまして、数量減の影響を受けているといったようなところがございます。

あとそのほか、やはり自動車の減産影響等も多少関わっているといったような状況でございます。それから、ラクタムの前提ということでございます。こちらは価格の前提でございますか。

**B：**そうですね。ごめんなさい。価格の前提でお願い致します。

**藤井：**ベンゼンの ACP の前提を 1,200 強で置いておまして、スプレッドにつきましては下期当初計画の 1,050 ドルというところを置いておりますので、ラクタムの価格は 2,200 から 2,300 ぐらいのこのあたりの水準感ということを見ております。

足元の状況からすると、今、足元こうベンゼン、ラクタム価格と下がっておりますけれども、先ほど申しましたような下期、秋口以降、需要期に入ってきて回復を見込むということでございました。

ベンゼン価格によってということがございますので、われわれとしては、スプレッドで管理をしておりますけれども、基本的に下期当初計画の 1,050 ドル。ここを目指していこうというところがございます。

**B：**はい、ありがとうございます。2 点目は、石炭とセメントのところなんですけども。

セメントが持分法に行きましたので、石炭の感応度がちょっとよくわからなくてですね。営業利益で効く部分というのが消費量としては大体何万トンぐらいなのか。それから持分法のところで効くのが何万トンぐらいなのか。

あと今回、その持分法の利益は 10 億円の赤字予想から 130 億の赤字予想に、120 億減額になっていると思うんですけども。ここはどういう前提でそうなるのかというあたりが、できるだけ詳しく目をお願いできればと思います。よろしく願いいたします。

**藤井：**持分法につきまして、あまり詳細なデータが手元にもないというところがございます。ご覧いただきましたように持分法損益で UBE 三菱セメントの持分法の取り込みということは大きく悪化するということで、通期マイナス 130 億円と見ております。

これ、当社の連結調整の部分が多少入っているところがございますので、こういった数字になっておりますけど。ほぼほぼ、これに近い数字を想定しているというところですよ。

この前提となる石炭価格ですけども、石炭価格は同社、400 ドルで今後の推移を見ているという前提と聞いております。

それから為替につきましては、135 円で見ていると聞いておりました。この会社は、為替の感応度は円安になるとマイナスが増えるというほうですので、135 円で少し高めに見て、高めといいますか、円安に見ているといったようなところと聞いております。

石炭価格の営業利益への影響というのは、ちょっと今すぐに手元に情報がございません。

**B：**はい。ぜひ結構です。セメントの値上げについてはどういうふうな、ファーストクォーターの浸透状況で、セカンドクォーター以降はどう見ているのかというところをできる範囲でお願いします。

**藤井：**はい。もともと 2,200 円の値上げを打ち出してということでございまして。これにつきましてはこれまでのところで申しますと、基本的には全てのお客様から有額回答ということをお願いしております。

一部まだ満額回答になっておられないお客様につきまして、詰めの交渉を実施しているということで。これについては上期中の決着を見込んでいると聞いております。

またさらに、先般追加でこの下期、10 月出荷分から、1 トン当たり 3,000 円という追加値上げを打ち出しておりますけど。これにつきましては今現在、お客様ですとか、周辺関係各所にご説明をして、ご理解いただき、浸透を図っているということで、この値上げの環境整備を今進めているところでございまして。

この下期には、これを 3,000 円の値上げ分も含めて、全てを織り込んでという計画になっております。

**B**：はい、大丈夫です。ありがとうございました。

**藤井**：はい、ありがとうございます。

**司会**：ありがとうございました。それでは、そろそろお時間近くになりましたので、以上で質疑応答を終了させていただきます。

最後に、藤井常務、一言ご挨拶をお願いいたします。

**藤井**：はい。ただいまご説明しましたように、今期利益予想を下方修正することになりました。今後も原材料価格ですとか資源価格、これらの高騰、高止まりですとか、あるいは地政学的なリスクの高まりといったような懸念材料が多い状況でございます。そうした変化を注視しながら対応に努めて参ります。

また、今年度から新しい中期経営計画のスタートをしております。こちらの方針に沿いまして、化学事業スペシャリティ化、これを推進してまいるというところを努めていきたいと思っております。

本日はご参加いただきまして、ありがとうございました。

以上で説明を終わらせていただきます。

**司会**：以上で電話会議を終了いたします。ご参加ありがとうございました。

[了]